

医療人育成センター発足に寄せて

當瀬規嗣

札幌医科大学医学部長

平成20年10月に札幌医科大学に3番目の教育機関である医療人育成センターが発足しました。かつて単科の医科大学であった札幌医科大学は、保健医療学部の設置について、医療人育成センターを置くことで、3つの教育機関を中心とした医療系総合大学としての歩地を固めつつあるといえます。

現在、わが国では高齢社会となり、医療・福祉が国家の重要なテーマとなっております。とくに、ますます高まる医療需要に対して、設備だけでなく人的資源の不足が強く叫ばれており、医療人の確実な育成は急務の焦であります。しかし、医師や医療従事者の数を単純に増やせばよいというのではなく、多様化高度化する国民の医療需要に応えられるような質の高い医療人の輩出が期待されています。したがって、これまでも北海道地域に多数の医療人を輩出し地域医療に貢献してきた実績を誇る我が札幌医科大学に対する北海道民の期待は、ますます盛り上がっています。

この時期をとらえて、より質の高い医療人の育成を期して、医療人育成センターが誕生しました。医療人の質を高めることは、単に知識を豊かにし、技術を向上させればよいということではありません。医療人としてある前に人間としての豊かさを身につけることが重要なのです。

この人間としての豊かさに関する教育は、以前は「教養教育」として主に初年度を中心に行なわれているものが中心でありました。しかし、現在の社会情勢を考慮すると、医療人育成のための人間教育は入学前の周知、入学試験の方策においても考慮されるべきであり、さらに加えて専門教育や卒後研修においても必要であると考えられます。なおかつ、それらの人間教育が各段階でバラバラに行なわれるのではなく、総合的な観点から連携を持って行なわれることが必要であると考えられます。

そのために医療人育成センターには入学者選抜企画研究部門、教養教育研究部門、教育開発研究部門の3部門が設置され、3部門がそれぞれの持ち場や分野を生かしつつ、相互的な医療人育成教育に、医学部、保健医療学部と共同して行なうことが期待されています。

この医療人の育成の全過程を通じて人間教育を行なうという考え方やその方略は、まだ固まったものではありません。むしろ、医療人育成センターにおいて、医療人における入学前、初年度教育、専門教育、臨床研修、卒後研修を通じた一貫としたシステムの確立していただきたいと思っております。

国家的要請である質の高い医療人の育成において、医療人育成センターが先進的な業績を上げて、医療人教育の日本のリーダーとなることを願っています。